

の業務要件を比較表に整理し、確認すべき要件を質問書としてみリストアップした。例えば、①：1回の基本配送料、無料配送になる最低購入額、②：配達可能地域、③：支払方法(振込・クレジットカード・代金引換など)、④：注文方法(電話・インターネットサイト・モバイルサイト・FAX)、⑤：商品受取方法(自宅に宅配・指定された場所に宅配・店舗で引渡し)、⑥：注文受付後の最短配達時間(12時間・24時間・36時間・48時間)などだった。

3. 私が行った要件定義の進め方

私は、上記の事前の準備結果を基に、代表ユーザと設計チームメンバーの両方でそれぞれが行うべきことや協力して行うべきことを確認・合意して要件定義を進めた。例えば、代表ユーザが機能要件の原案、設計チームメンバーが非機能要件の原案を作成することとした。

1,600字

設問ウ (600字以上1,200字以内)

1. 設問イで述べた準備に対する私の評価

私が実施した要件定義の準備は、予定した効果を発揮し、システムは順調に稼働している。その意味では、私は正しい要件定義の準備をしたと評価できる。しかし、下記の2つには不十分な点があり、改良の余地があると考えられる。

1. 1 ネットスーパー事業に関する勉強会の実施

私は、店舗担当者から注文画面の例を依頼した際、“ネットスーパー事業の勉強も実施すべきである”との指摘を受けた。店舗担当者の中には、ネットスーパーを利用した経験がない者が2名いた。スーパーマーケットであるK社の社員ならば、当然、ネットスーパー事業の概要を知っているはずだと考えた私が間違っていた。

1. 2 質問書に記述した確認要件の条件設定

私は、作成した質問書に基づいて、配達可能地域を店舗担当者にヒアリングした。私は“店舗から半径15km

400字